

メキシコの牛肉生産と輸出動向

ALICセミナー 2015年8月6日

(独) 農畜産業振興機構
調査情報部 横田 徹

<http://www.alic.go.jp/>

セミナーの構成

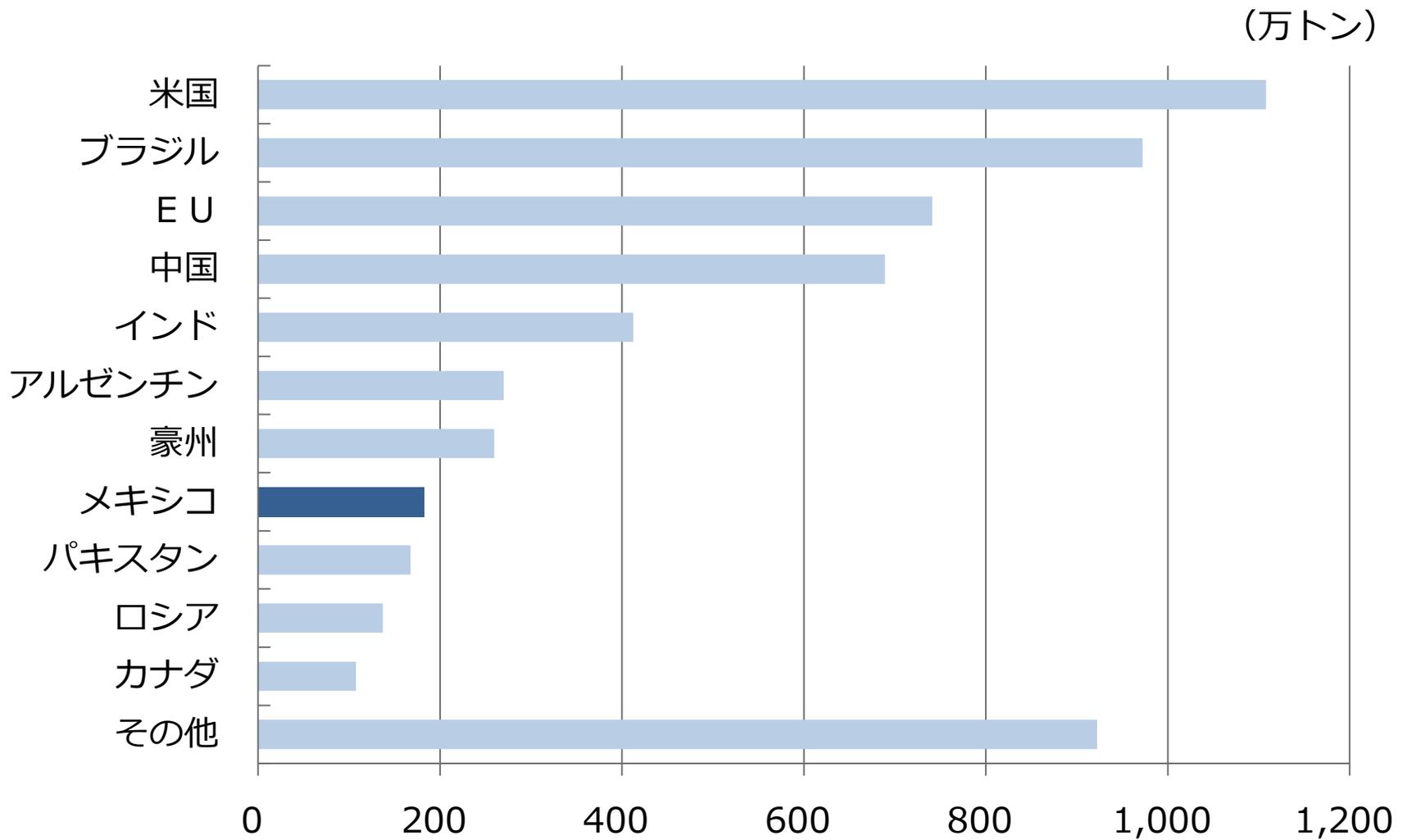
- 世界の牛肉生産、輸出概況
- 日本の牛肉輸入概況
- メキシコの食肉需給動向
- メキシコの農業、食肉生産を取り巻く状況
- メキシコの牛肉生産、輸出の動向
- まとめ

参考（資料中の略称など）

- USDA（米国農務省）
- SAGARPA（メキシコ農牧農村開発漁業食料省）
- SIAP（農牧漁業情報局－SAGARPA傘下）
- INEGI（メキシコ国家統計地理情報局）
- Mexican Beef（メキシコ産牛肉輸出業協会）
- AMEG（メキシコ牛肉肥育業者協会）
- 穀物年度（9月～翌8月）

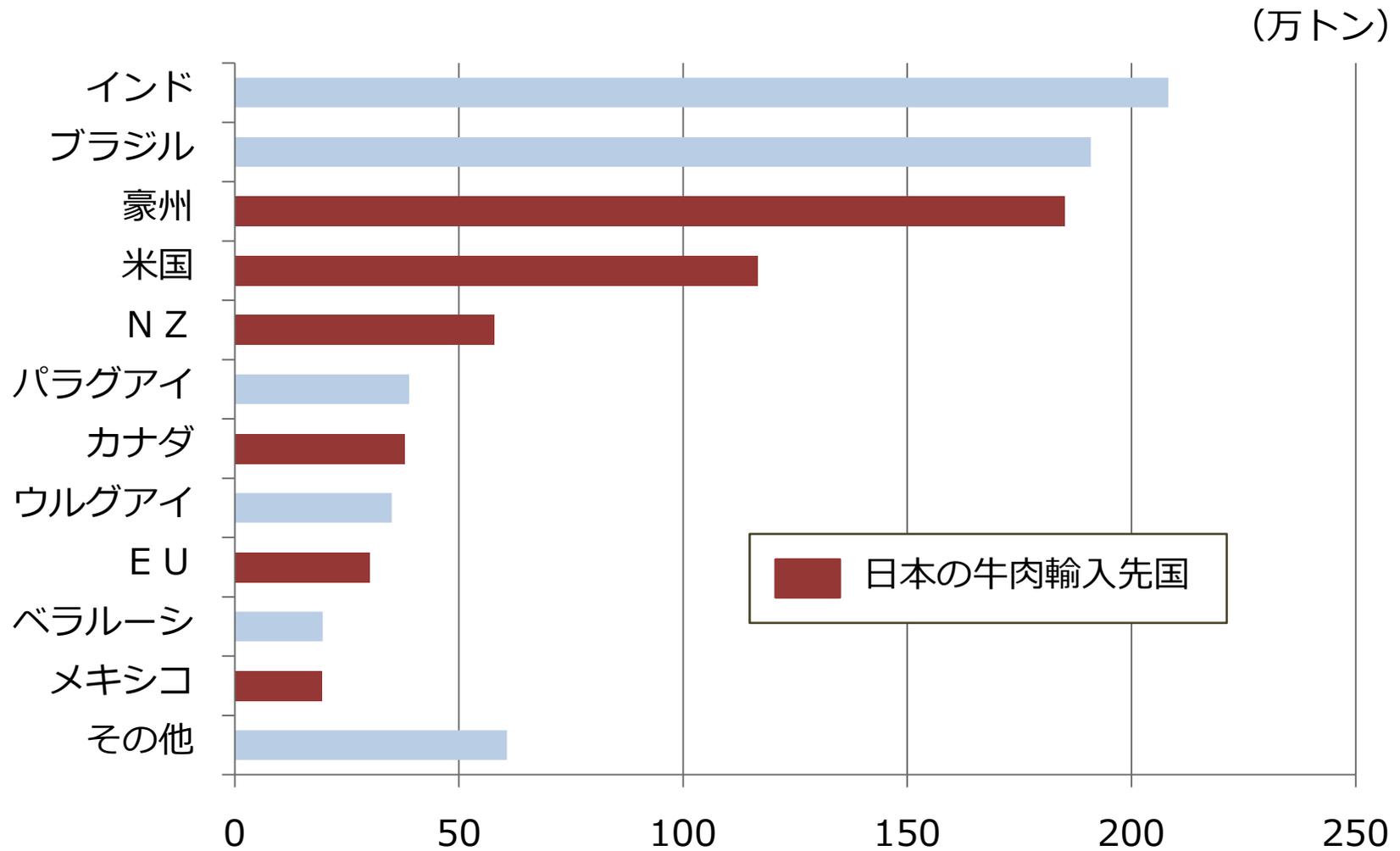
- ◇ この資料は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。
- ◇ この資料の正確性の確認等は、各個人の判断でお願いします。
- ◇ 提供した情報の利用に関して、万一、不利益を被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。

世界：牛肉生産国（2014年）



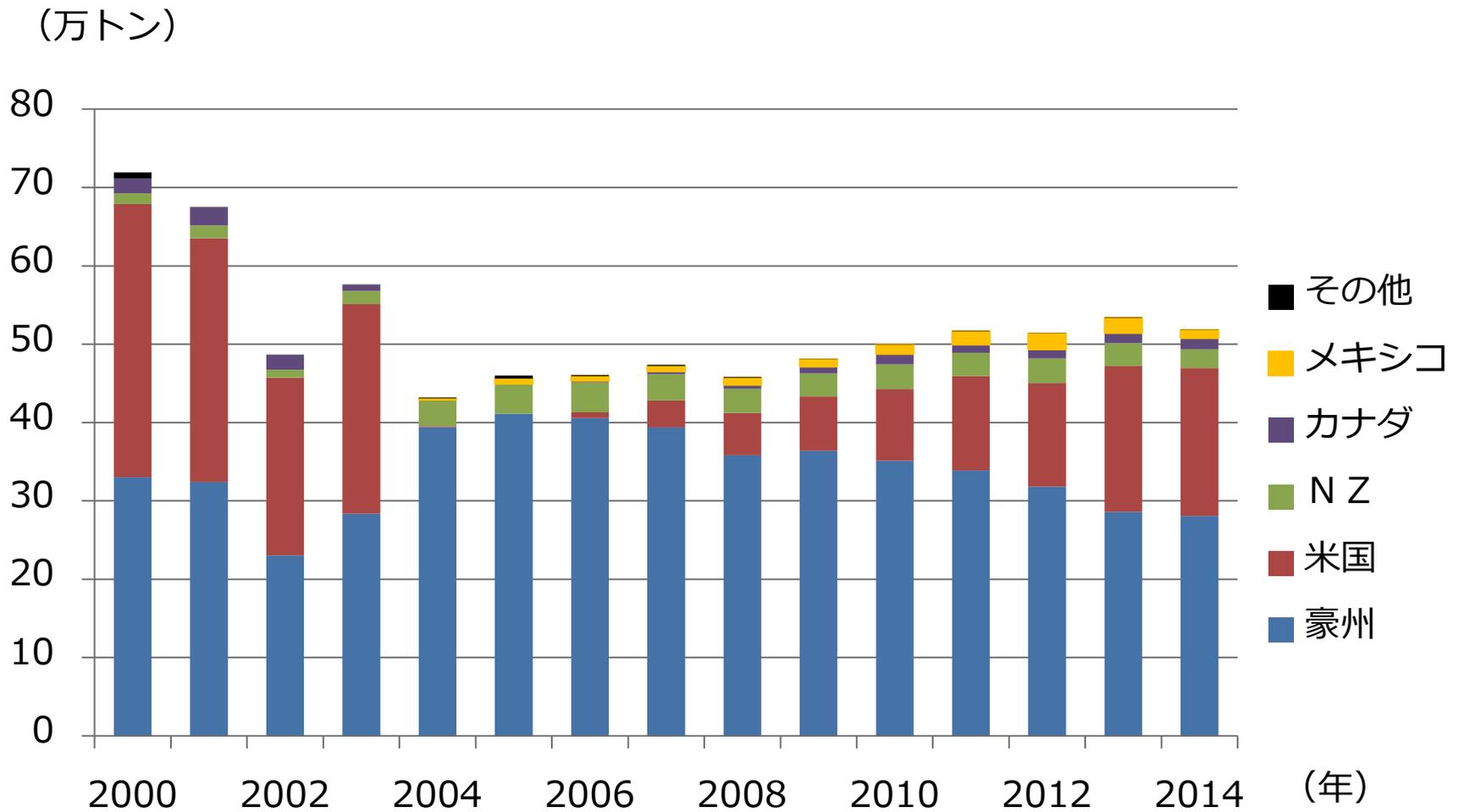
資料：USDA

世界：牛肉輸出国（2014年）



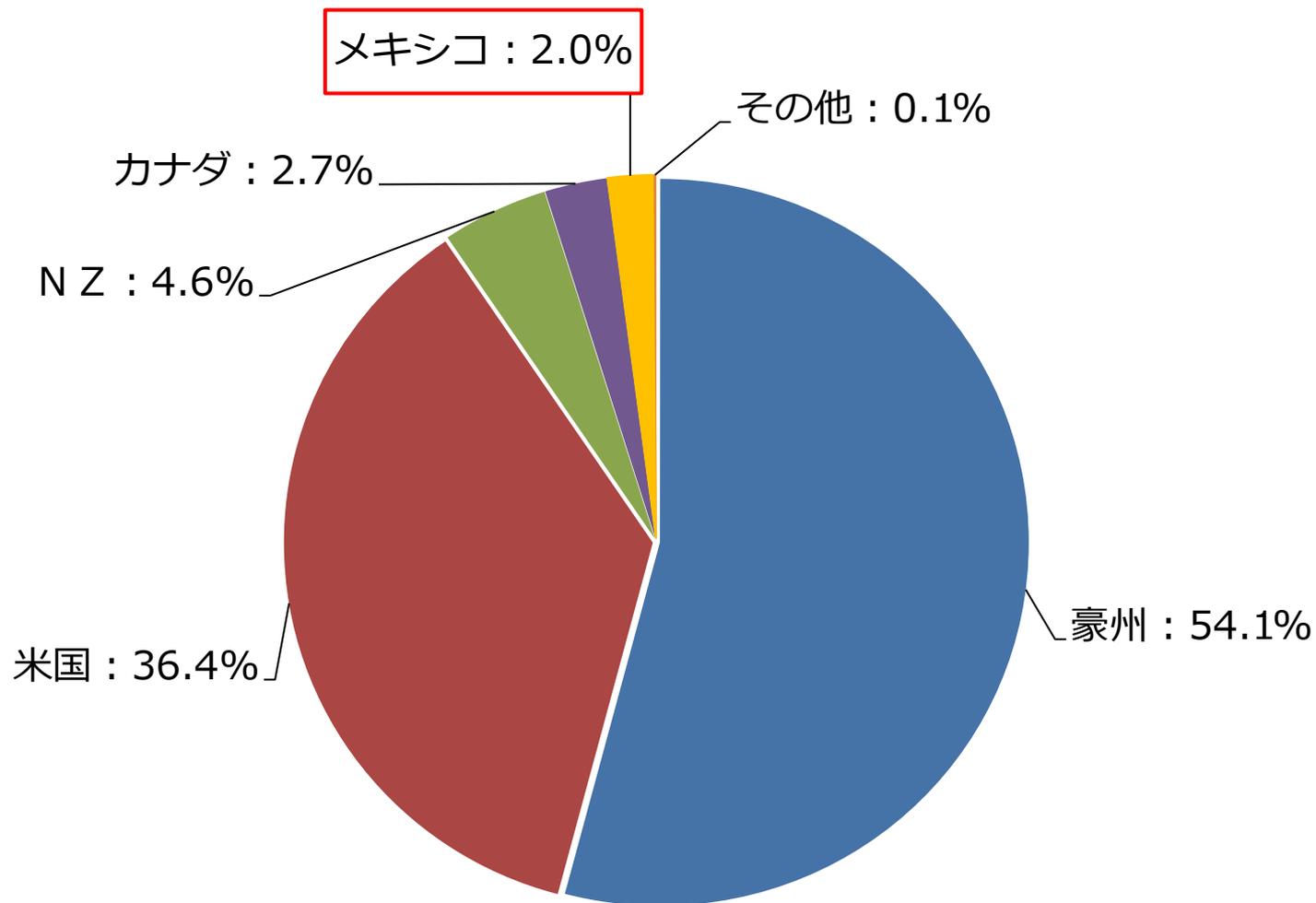
資料：USDA

日本：国別牛肉輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HS0201,0202の合計

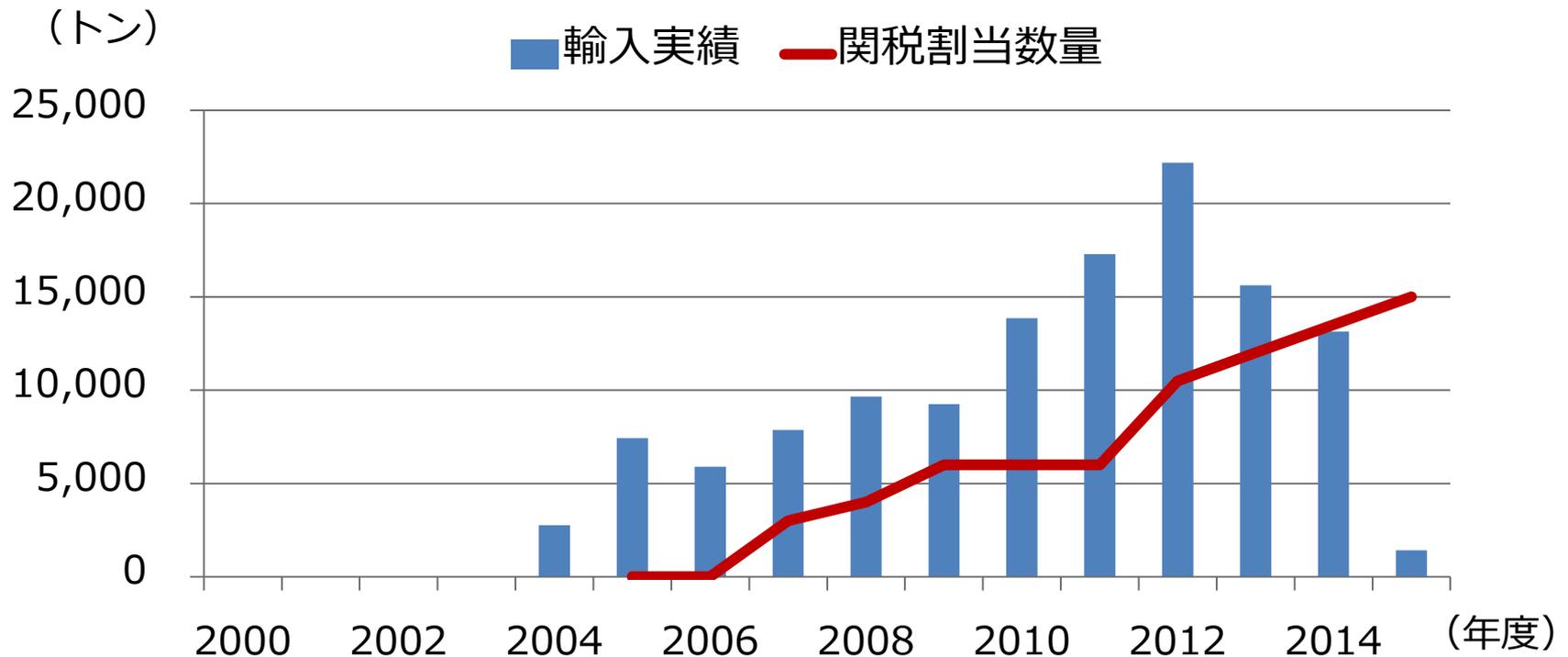
日本：国別牛肉輸入割合（2014年）



資料：「Global Trade Atlas」

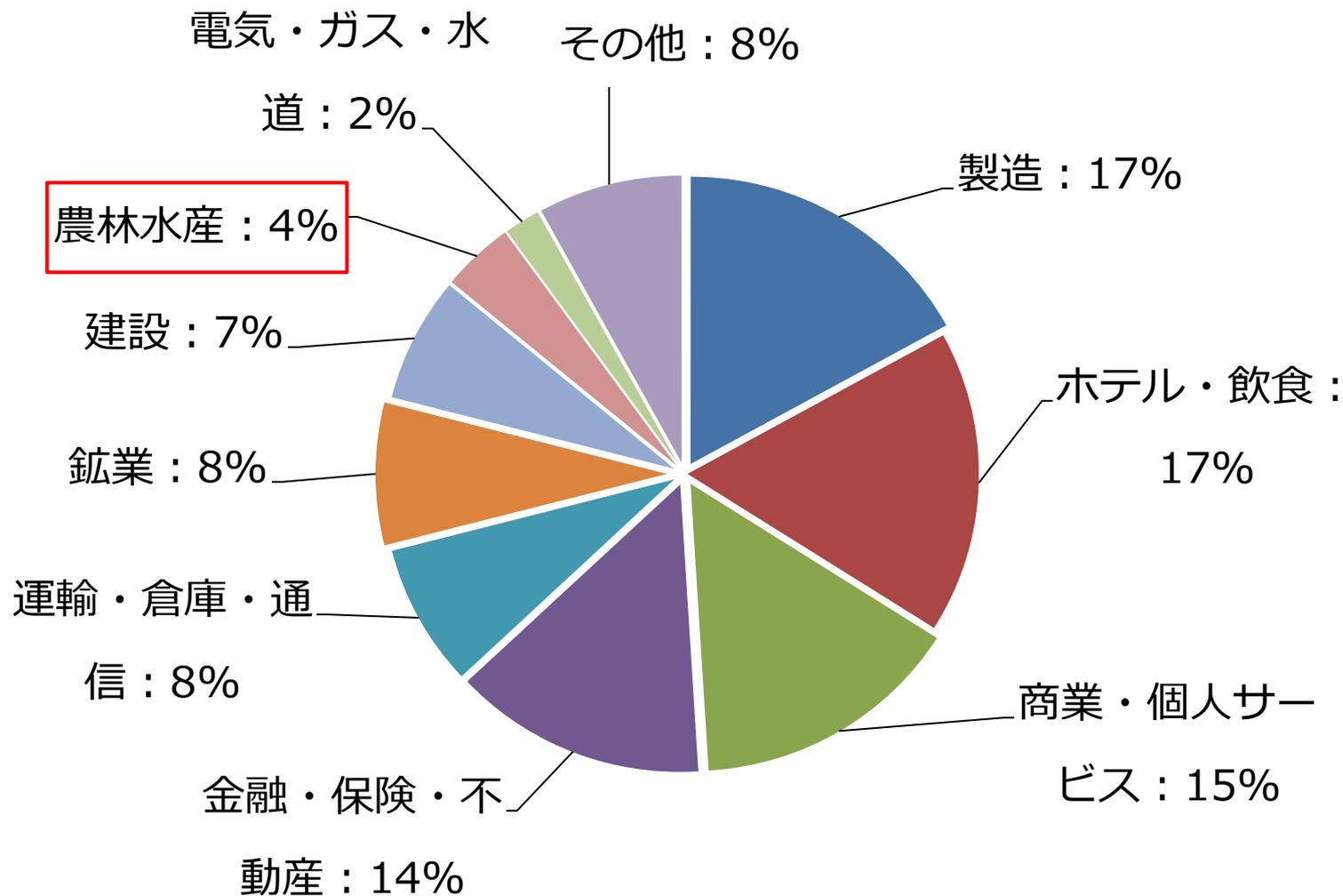
日本：メキシコとの経済連携協定（EPA）

- 2005年4月1日に発効（初年度の関税割当数量は10トン）
- 2015年の関税割当数量は1万5000トン



資料：財務省「貿易統計」、農林水産省
注：2015年度は5月時点実績

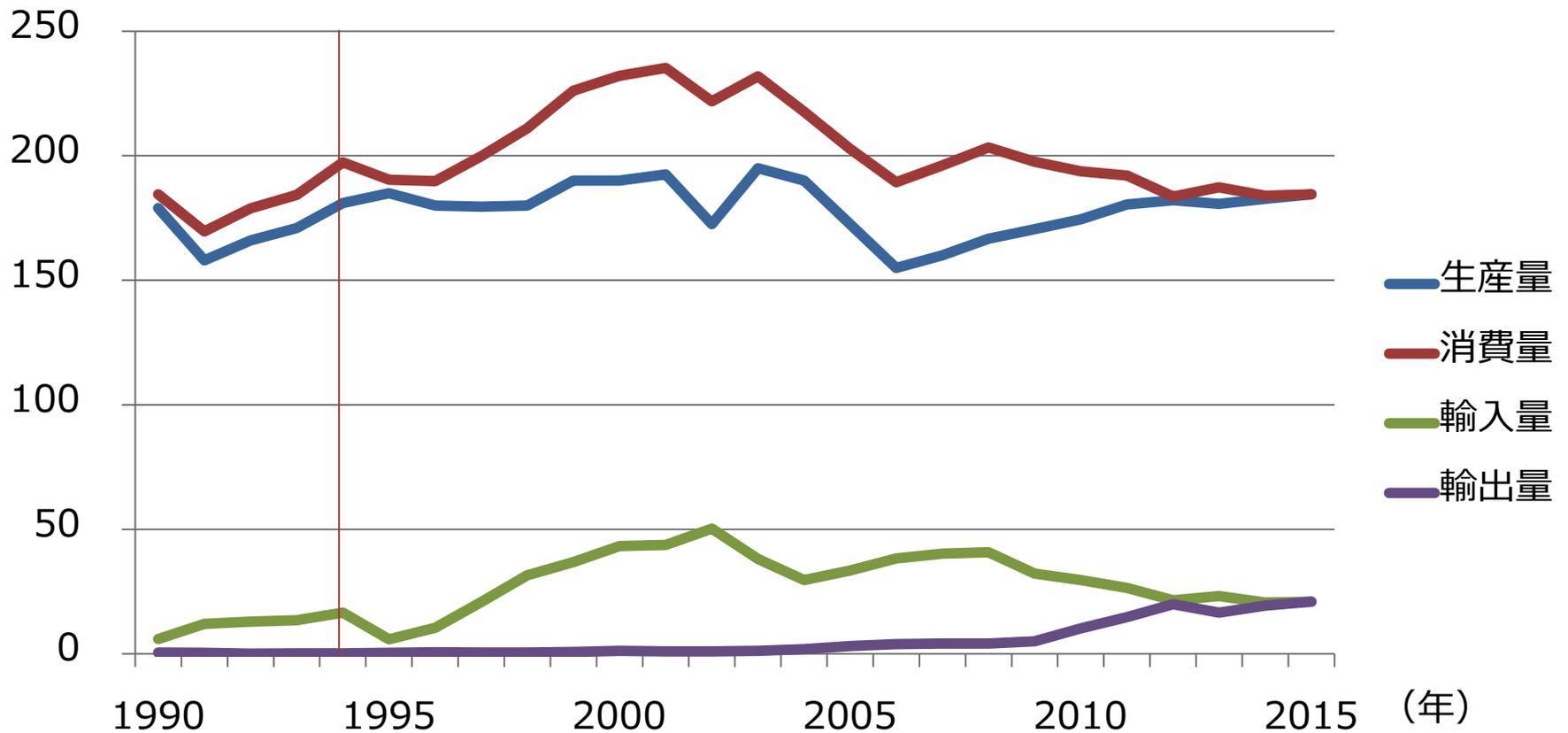
メキシコ：GDP産業別構成割合（2013年）



資料：メキシコ政府データを基にALIC作成

メキシコ：牛肉需給の推移

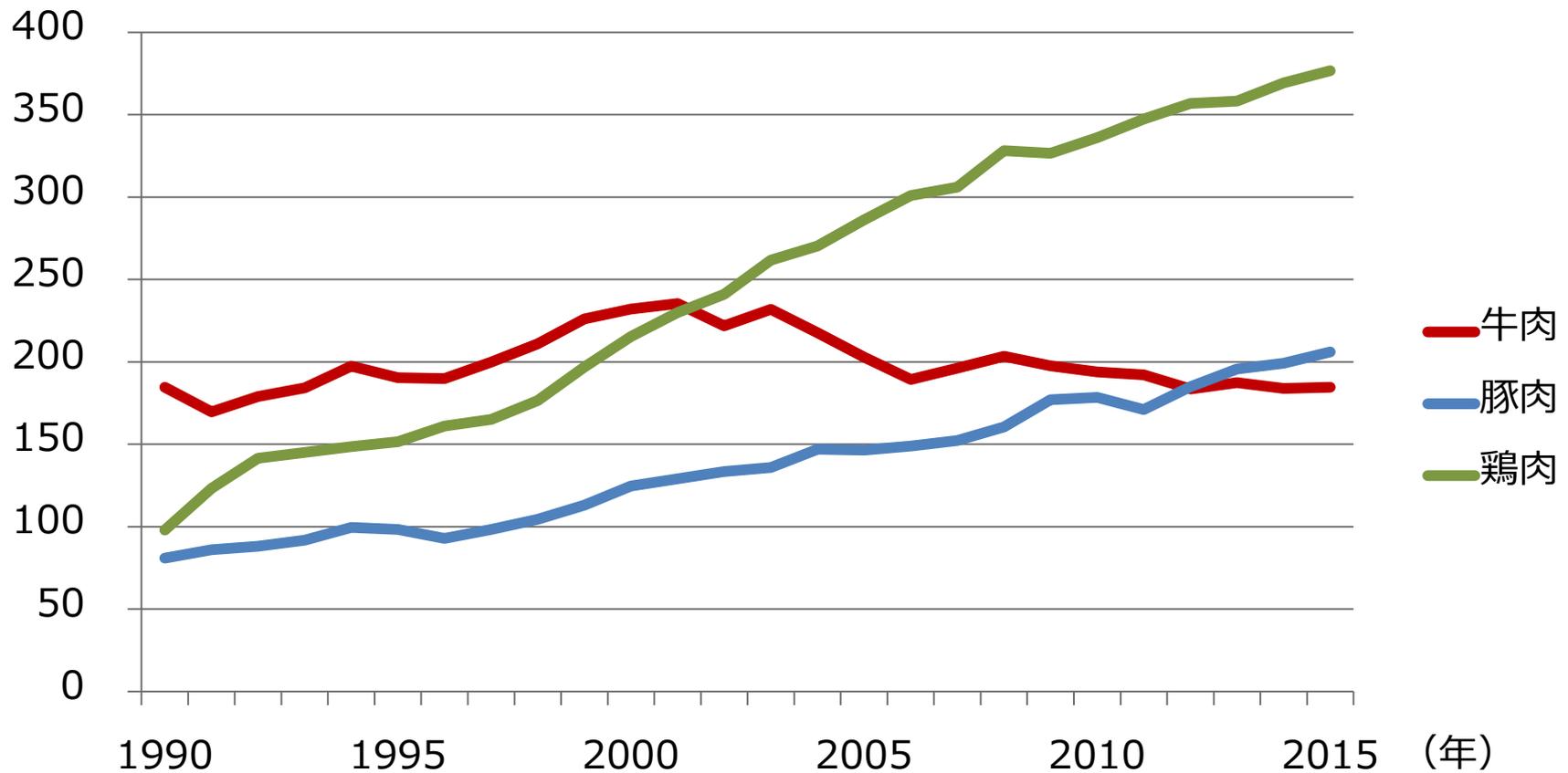
(万トン：枝肉重量ベース)



資料：USDA
注：2014,15年は予測値

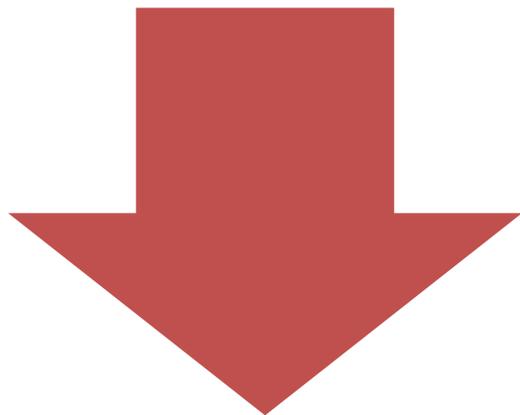
メキシコ：食肉消費の推移

(万トン：牛肉、豚肉は枝肉重量ベース)

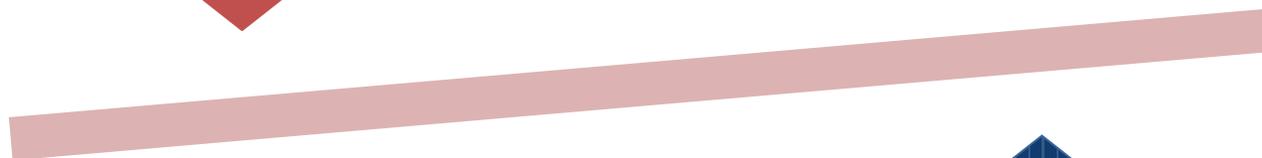


資料：USDA
注：2014,15年は予測値

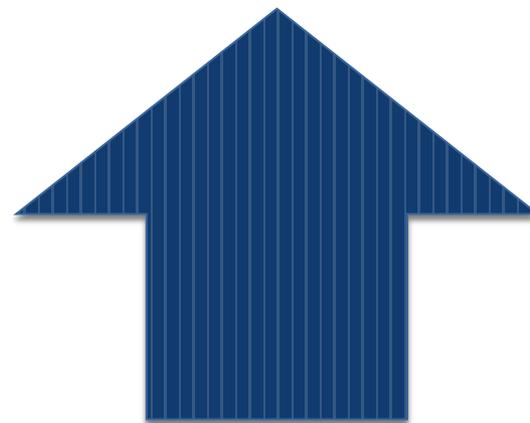
メキシコ：貿易の自由化の背景



貿易自由化の推進
と国営企業の民営
化などが条件



80年代の債務危機
による国際機関など
からの融資



メキシコ：北米自由貿易協定（NAFTA）とその影響

- 米国、カナダ、メキシコの3カ国で締結された地域自由貿易協定であり、1992年に合意し、1994年1月に発効
- 関税および非関税障壁を15年間で撤廃
- 生きた家畜、牛肉、豚肉などの関税は、関税削減の加速化により前倒しされ1993年から無税。主要穀物であるトウモロコシは2008年から無税

2つの見方 (メリット)

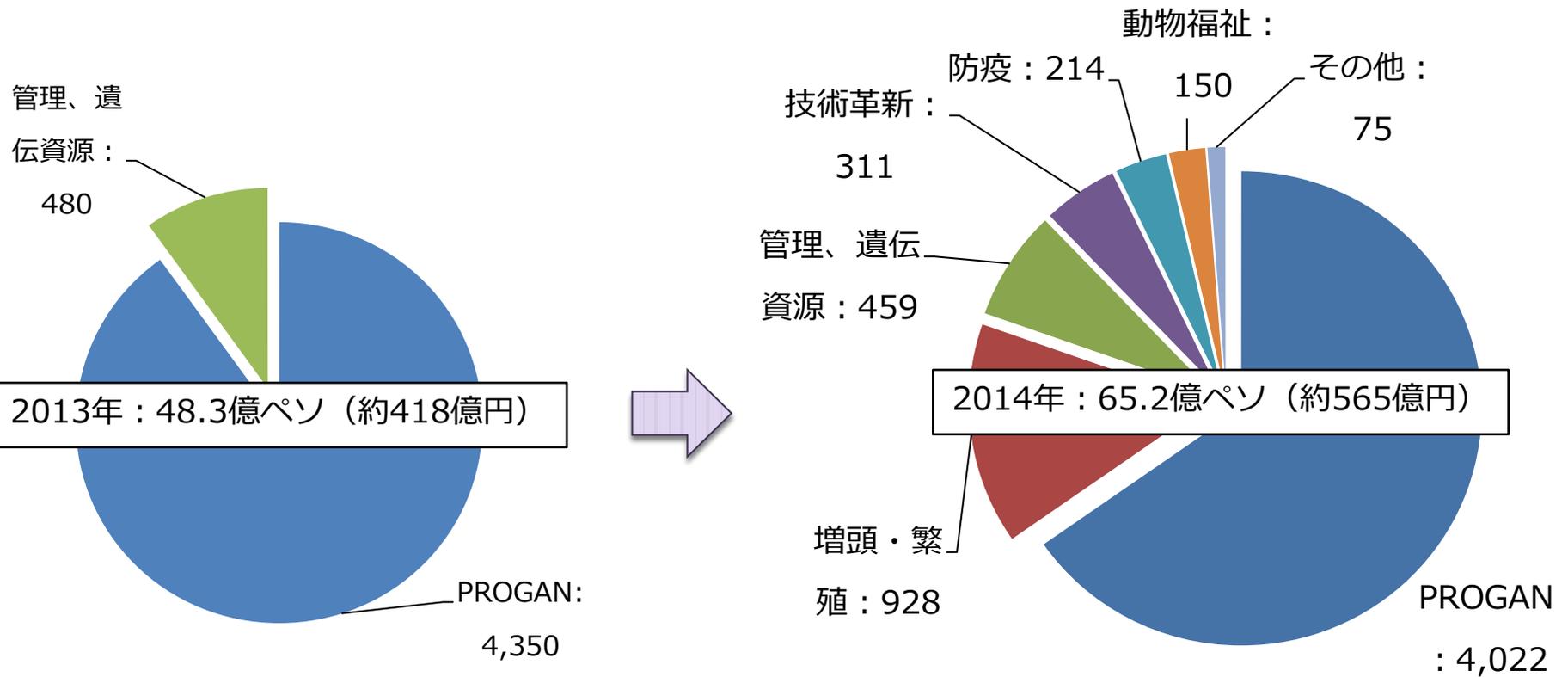
- 関税撤廃により米国市場への農産物供給地として大規模化が進展
- メキシコ農産物の輸出競争力を高める施策の実施

(デメリット)

- 小規模農家の廃業
- 輸入増に伴う食料自給率の低下（主食であるトウモロコシなど）

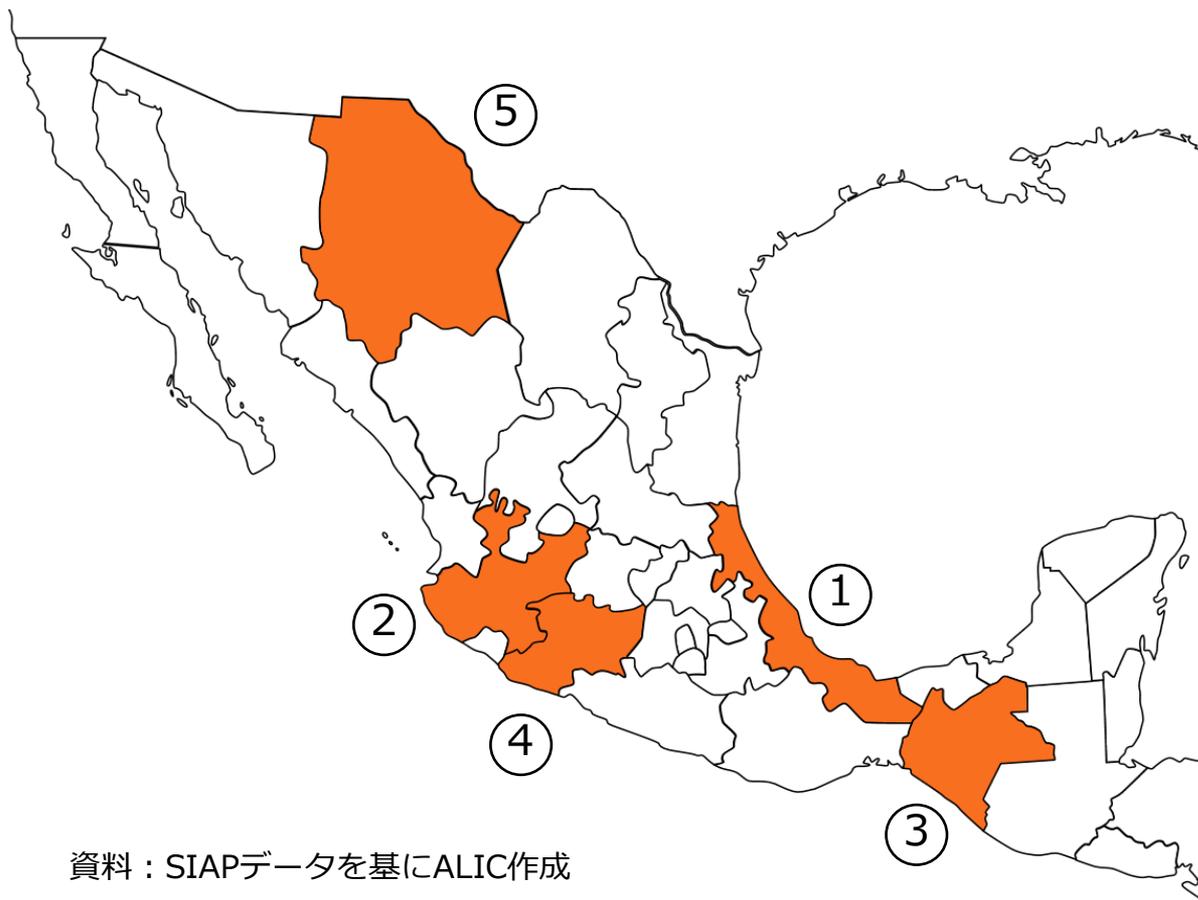
メキシコ：肉牛生産への支援

- 「国家開発計画（2013～18年）」を踏まえ、2018年の牛肉生産目標数量は203万トン（2012年比12%増）
- 背景には、農村部の貧困問題の解消 ⇔ 雇用の創出、治安の回復



資料：SAGARPAデータを基にALIC作成

メキシコ：主要肉牛生産地域（2014年）



① ベラクルス州：379万頭

② ハリスコ州：276万頭

③ チアパス州：262万頭

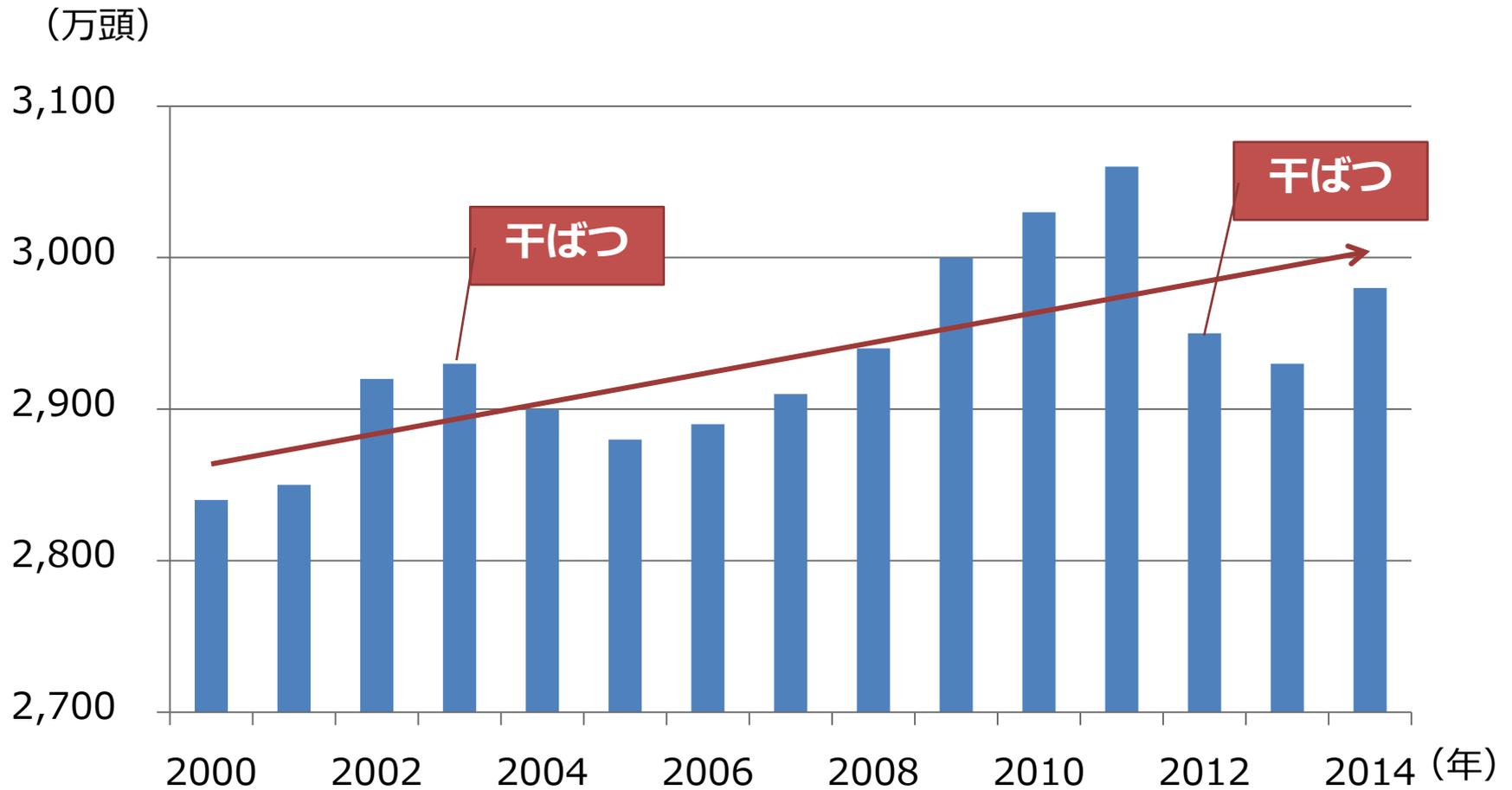
④ ミチョアカン州：185万頭

⑤ チワワ州：168万頭

メキシコ計：2,980万頭

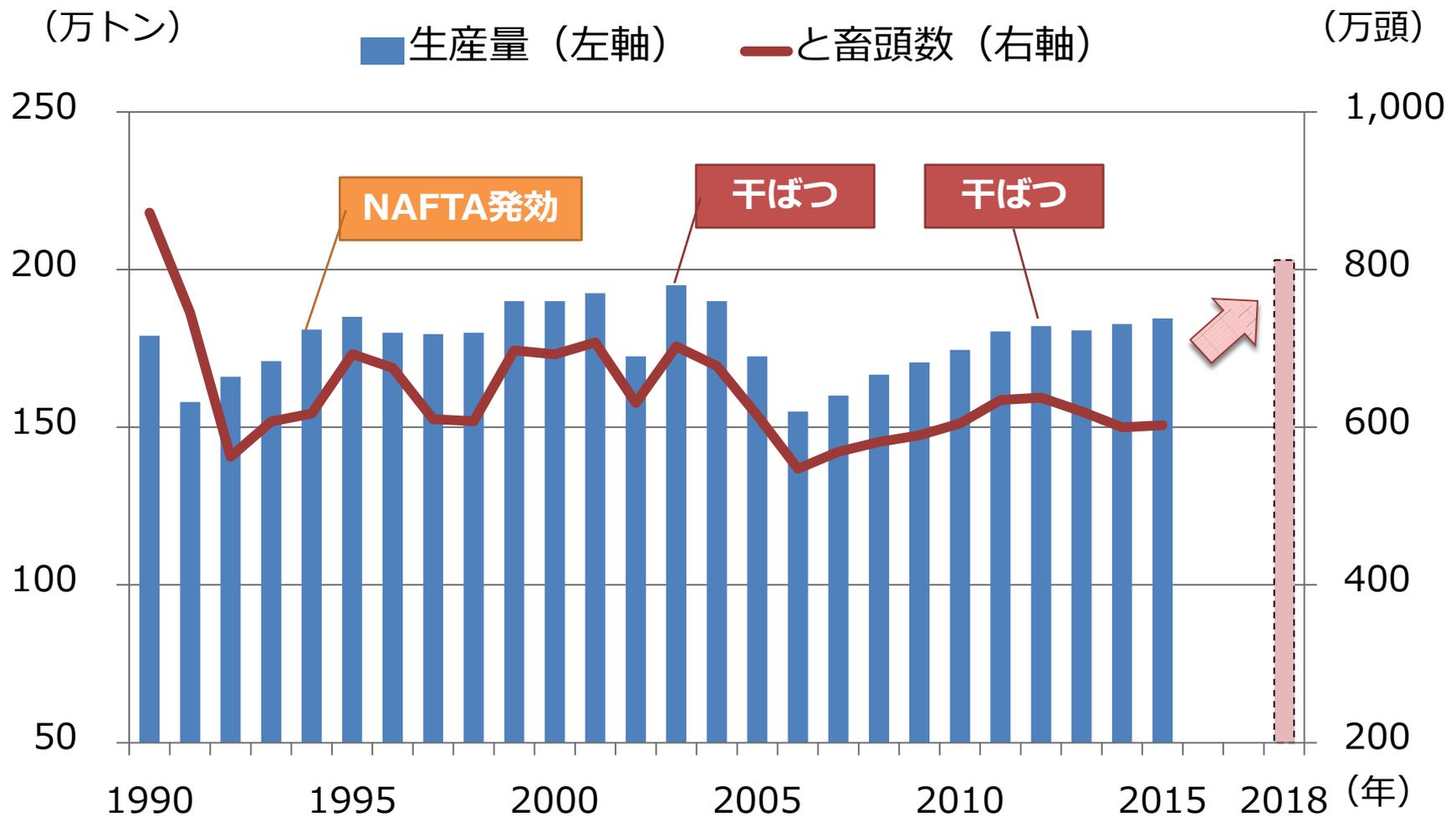
資料：SIAPデータを基にALIC作成

メキシコ：牛飼養頭数の推移



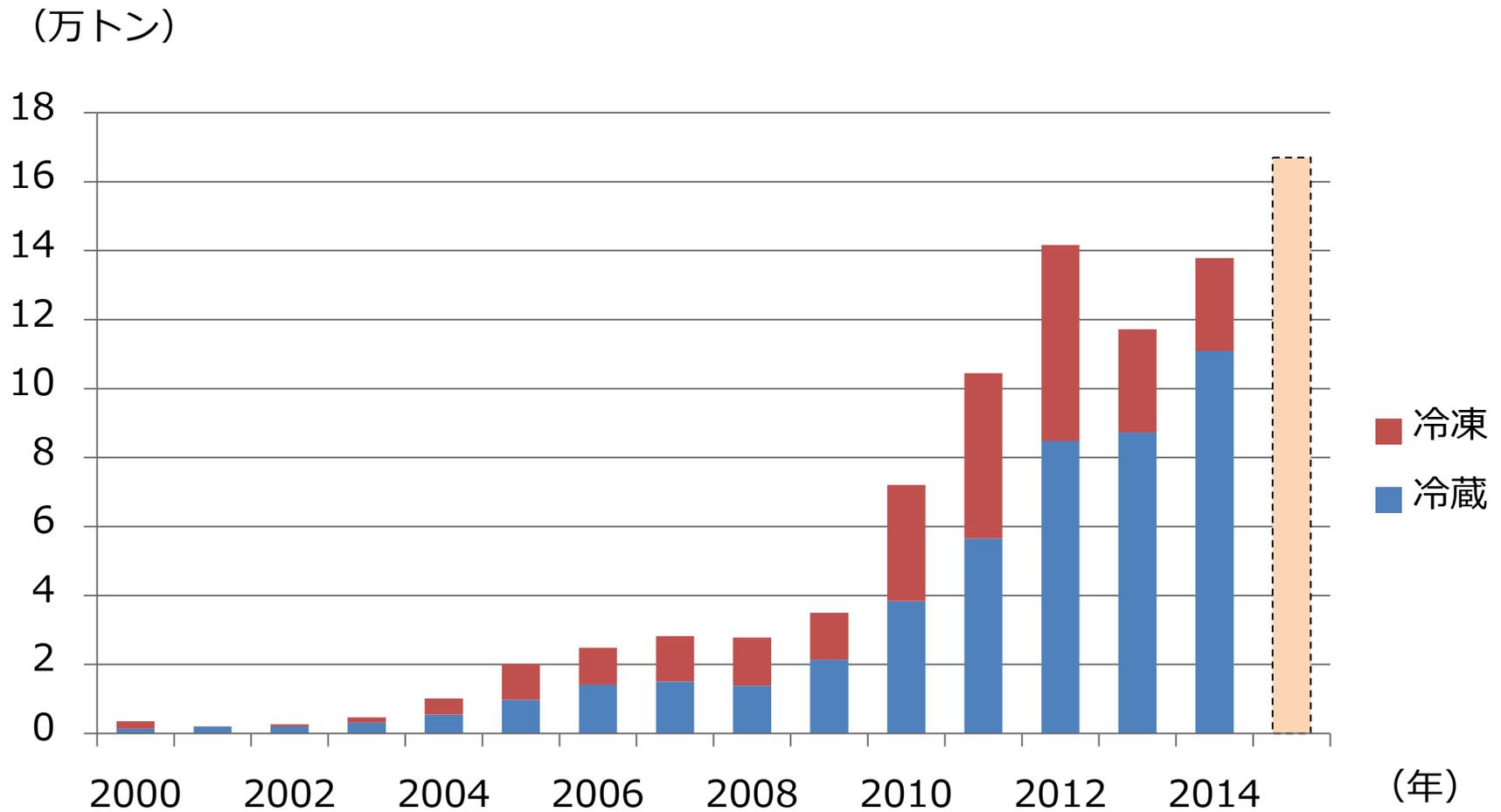
資料：SIAP
注：2014年は見込み

メキシコ：と畜頭数、牛肉生産量の推移



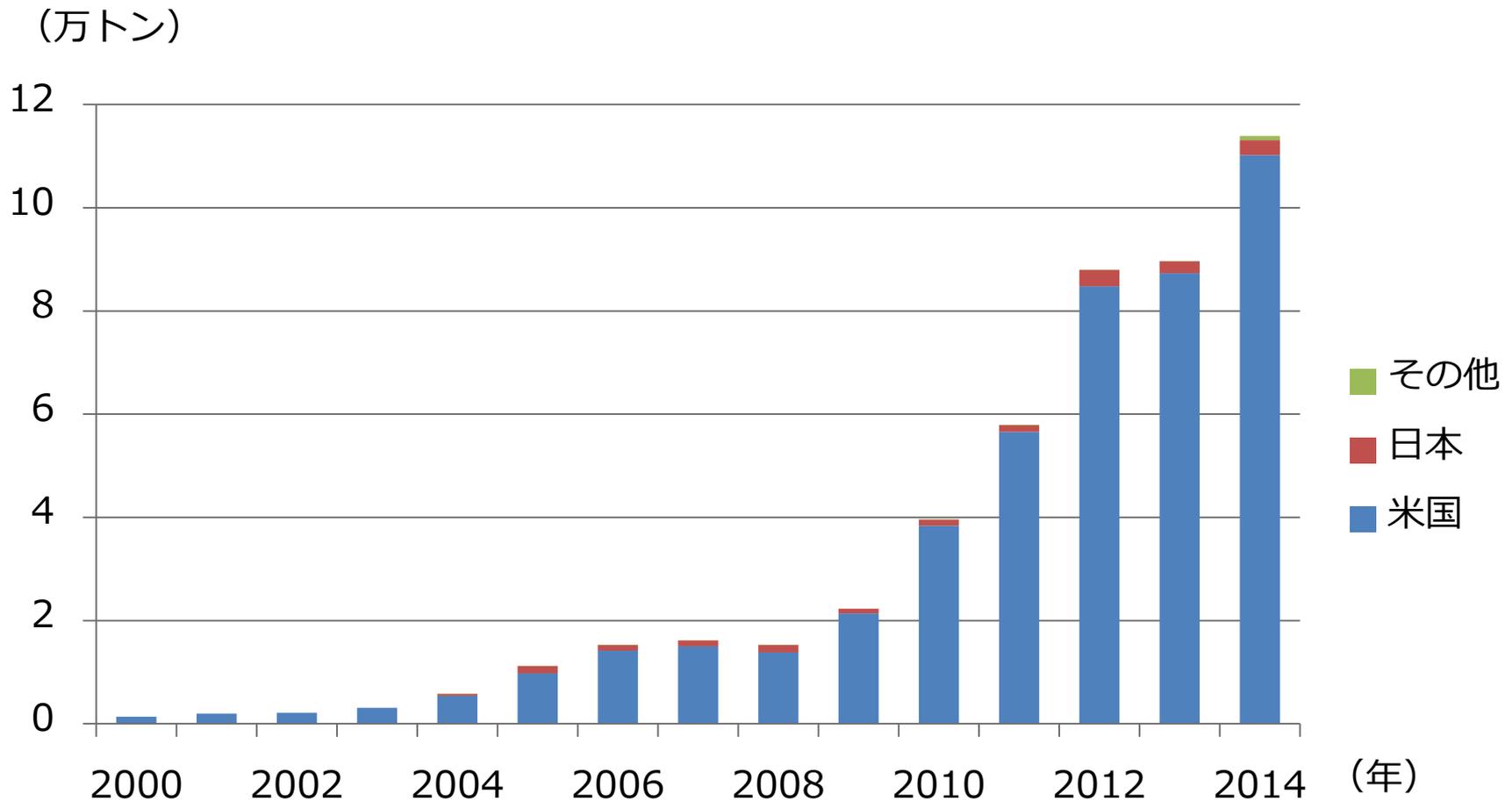
資料：USDA、SAGARPA
注：2014,15年は見込み

メキシコ：牛肉輸出量の推移



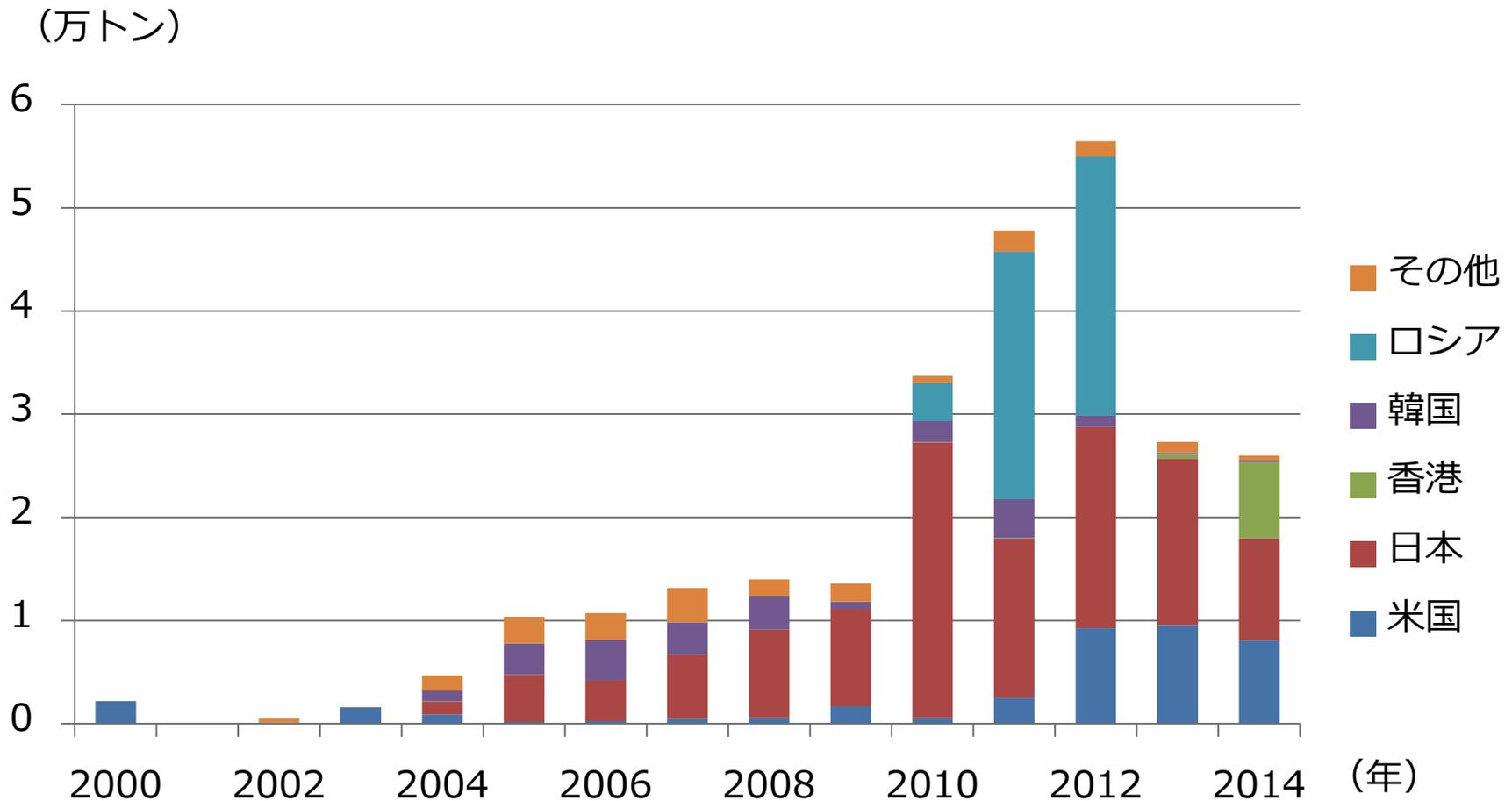
資料：INEGI、AMEG

メキシコ：牛肉輸出量の推移（冷蔵）



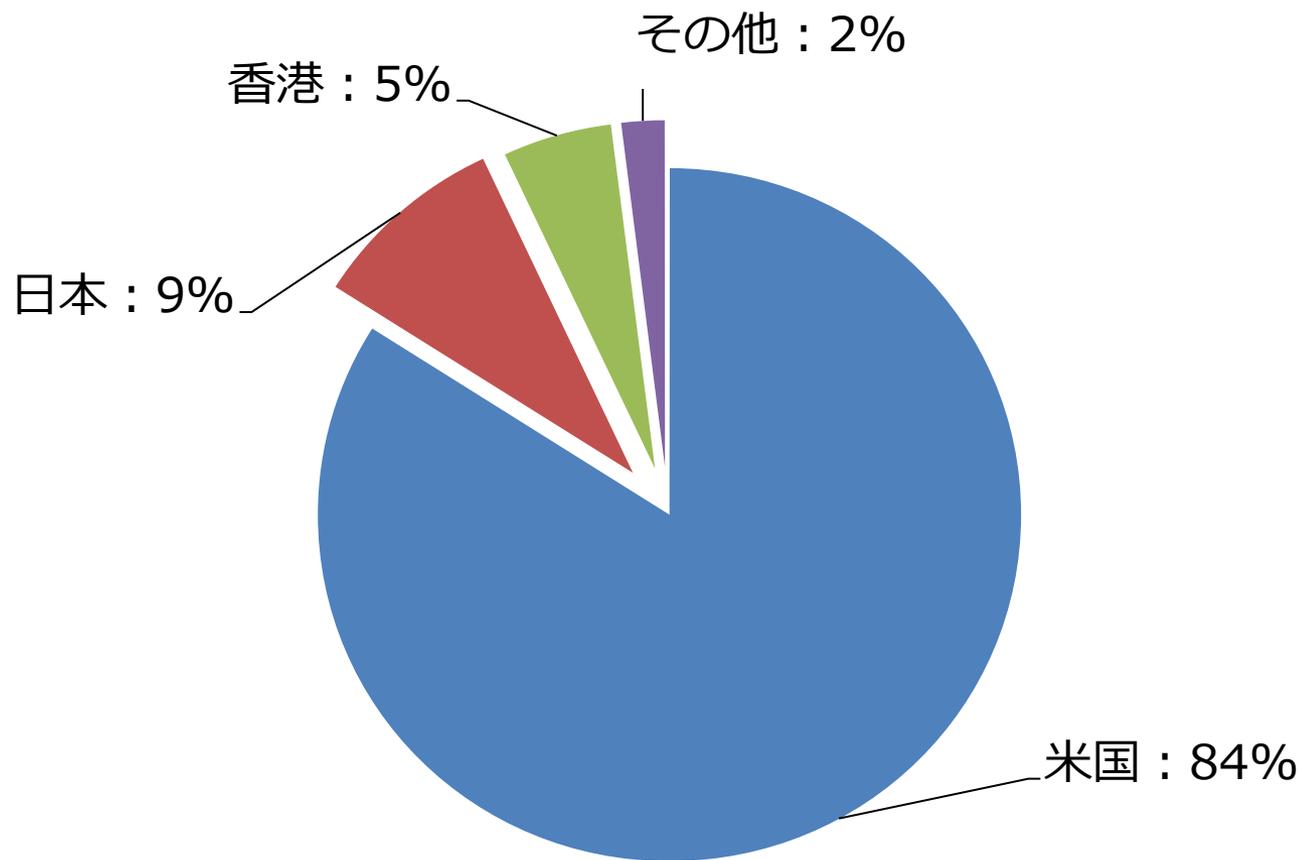
資料：INEGI

メキシコ：牛肉輸出量の推移（冷凍）



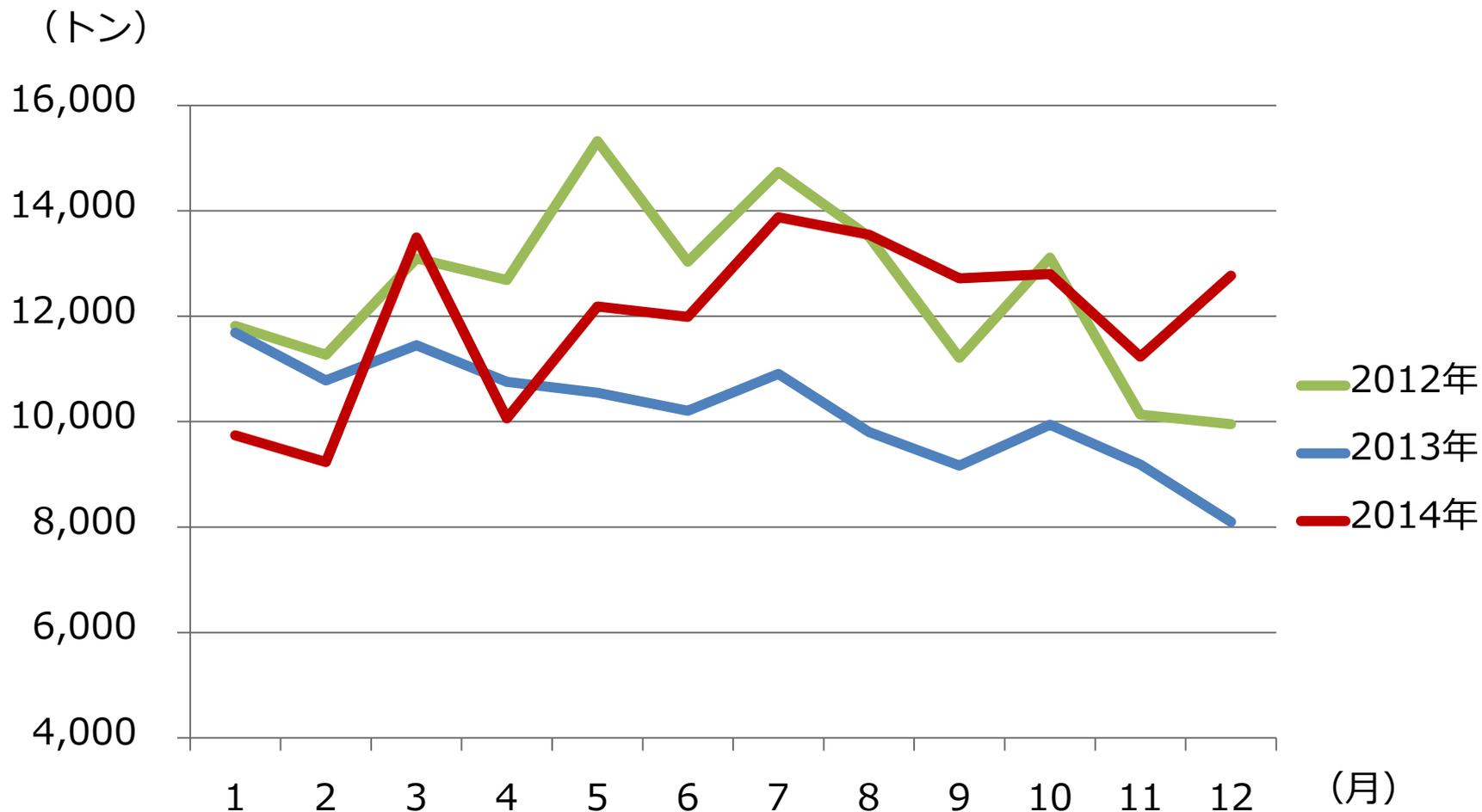
資料：INEGI

メキシコ：牛肉輸出先国の割合（2014年）



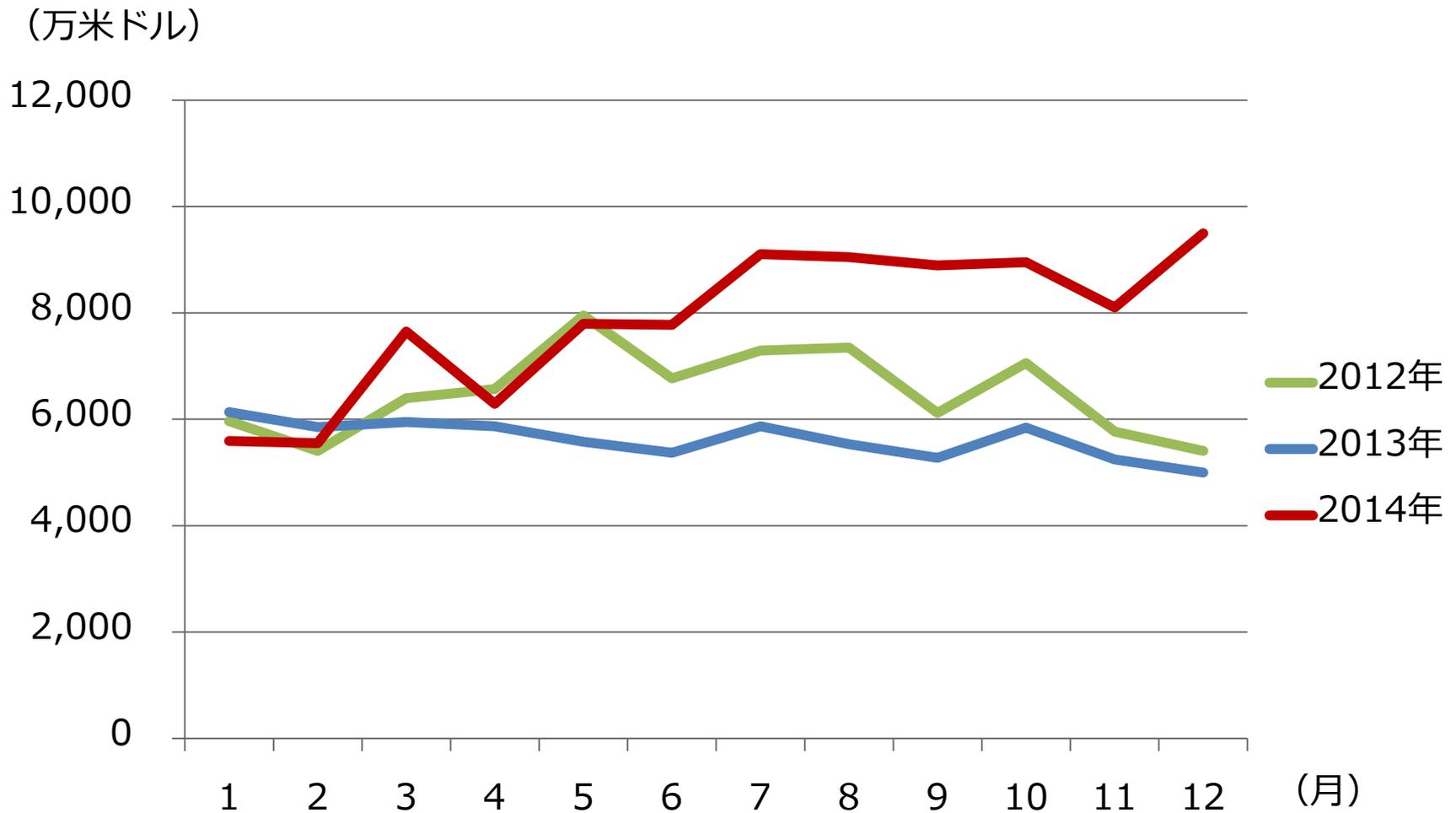
資料：INEGIのデータを基にALIC作成

メキシコ：牛肉輸出量の推移



資料：Mexican Beef

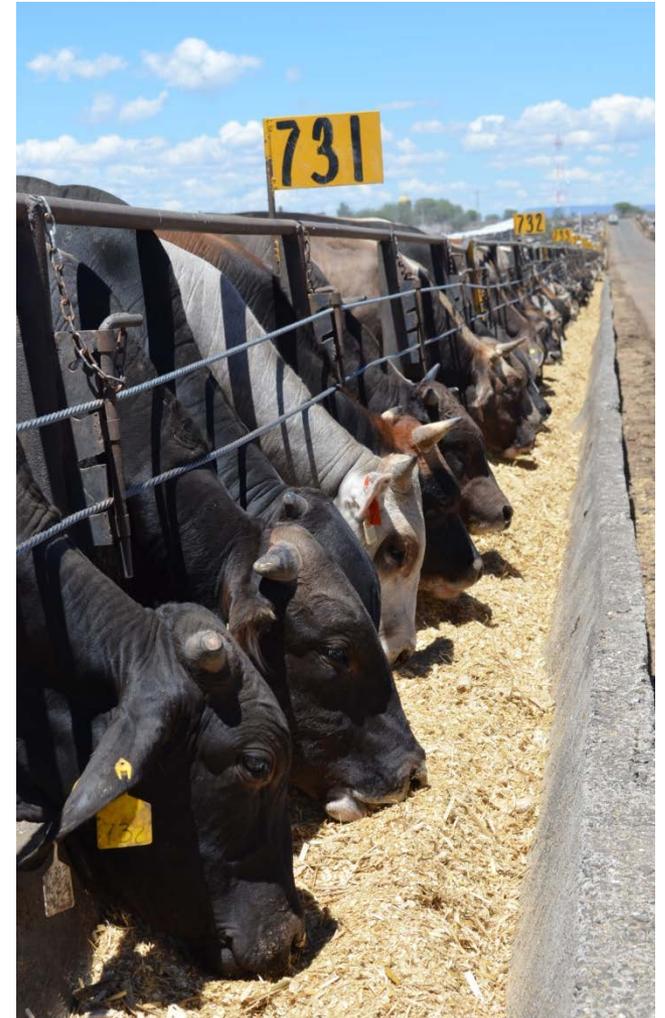
メキシコ：牛肉輸出額の推移



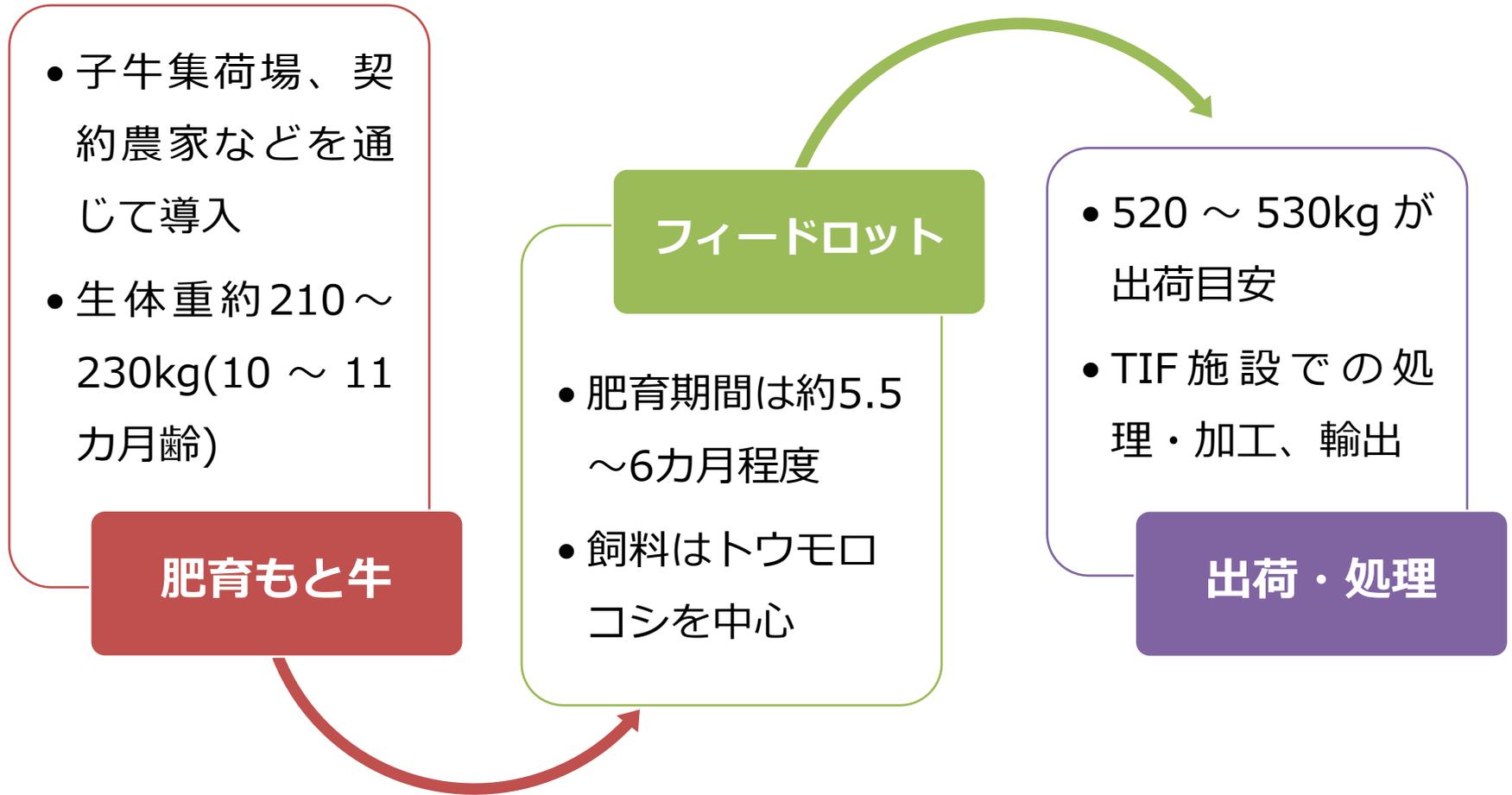
資料：Mexican Beef

メキシコ：フィードロット生産の概況

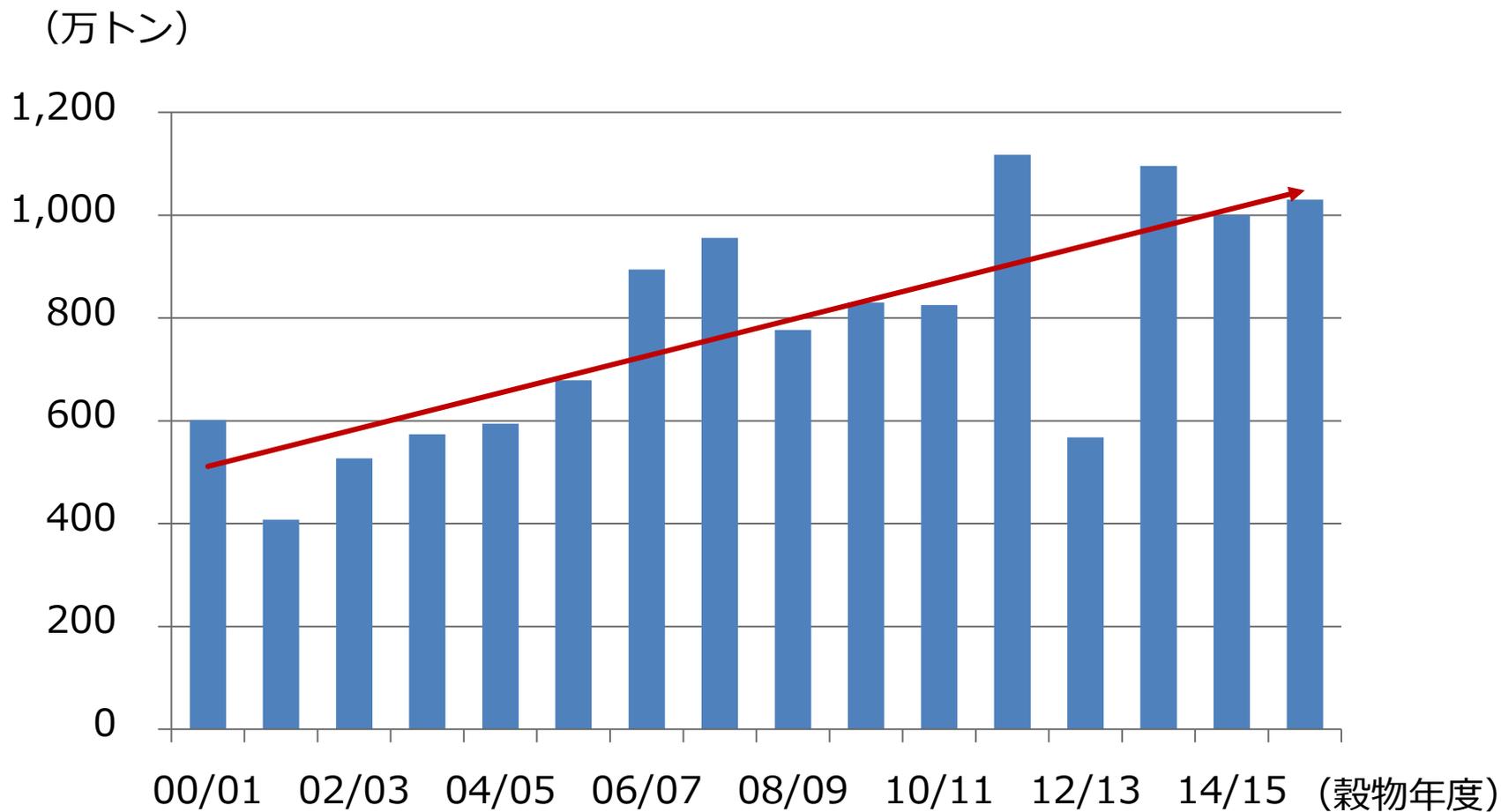
- 穀物肥育の拡大（メキシコ国内の収容能力は110万頭超と推測）
- TIF施設（SAGARPAにより検査・検疫を受け認定された食肉処理・加工施設）でのと畜は、全体の6割にまで拡大



メキシコ：牛肉生産の流れ



メキシコ：トウモロコシ輸入量の推移



資料：USDA

注：2014/15年度、15/16年度は見込み

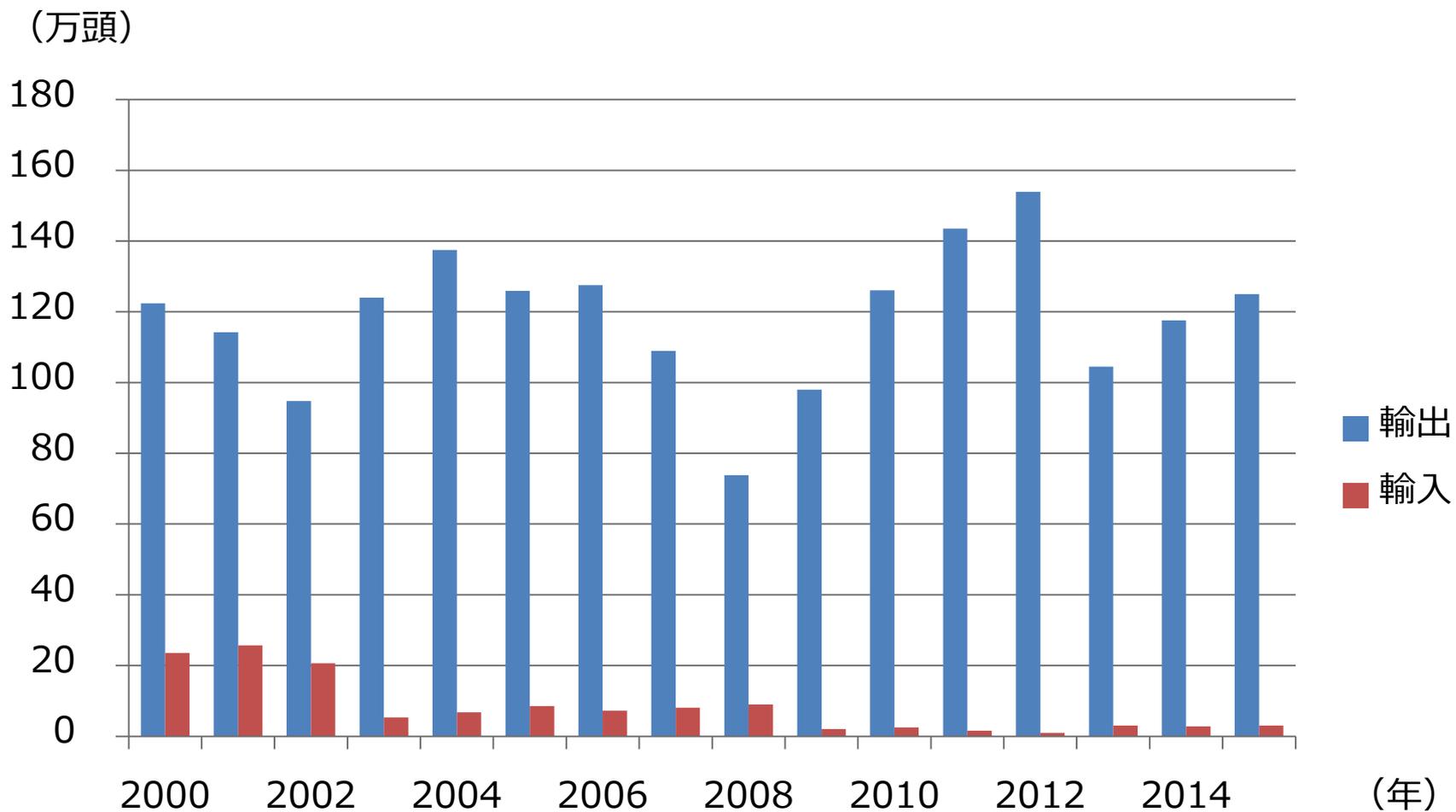
メキシコ：牛肉部門への投資状況

- 養豚、養鶏産業とは異なり、米国などからの投資はほとんど見られない

（ 養豚は大手4社にSmithfield, Cargillなどの米国資本
養鶏は大手2社にTysonなどの米国資本 ）

- 背景として、肉牛・牛肉産業は養豚、養鶏に比べて資本集積による大規模化（垂直統合）が困難
- また、メキシコから米国に生体牛が輸出され、テキサス州などの南部で肥育、と畜する形態が普及したことで、国境を挟んだ分業体制が構築

メキシコ：生体牛輸出入頭数の推移



資料：USDA

注：2014,15年は見込み

米国：メキシコ産の生体牛

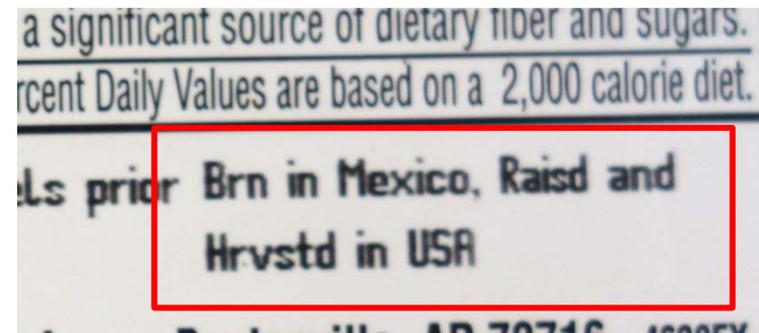
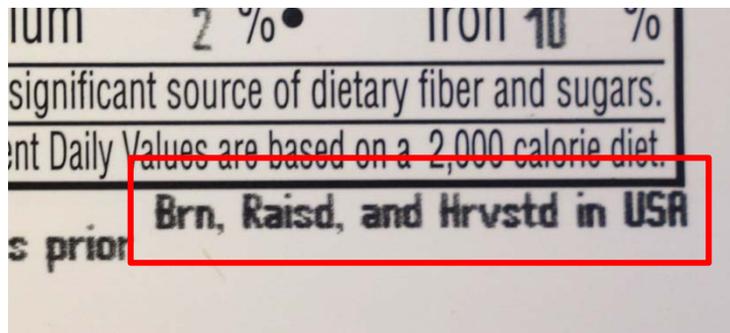
- メキシコ産の生体牛（熱帯種を中心）は、米国南部（テキサス州など）で高い需要
- 高温の肥育環境に適していると同時に、高い歩留まりも要因
- 米国で肥育されたものの一部は、日本向け牛肉として輸出



写真：米国の肥育農家（テキサス州）

米国：COOLをめぐる動き

- 2008年に原産国表示（COOL：Country of Origin Labeling）を実施
- 「米国産」と表示できる牛肉は、「出生」、「肥育」、「と畜」の全てが米国内でなされたもの
- メキシコなどから輸入した生体牛を米国でと畜し、流通・販売する際には新たな仕分け作業が必要となり、値引きや取引停止を求める動きあり
- メキシコ、カナダ両政府は2008年、WTO協定違反としてこれを提訴し、2015年5月に違反との最終判断
- 米国は、報復措置を避けるためにCOOLの早急な見直しが求められている



量販店で販売される牛肉（パック製品）のCOOL表示

まとめ：牛肉輸出の優位性と課題

背景

- NAFTAなどによる巨大な市場を背景とした生産の拡大
- メキシコ政府の積極的な外交政策、食肉企業・輸出業界の地道な活動

優位性

- 世界基準の食肉処理・加工施設の整備
- 食肉・内臓処理に対する細やかな技術
- 市場ニーズの変化に応じた迅速な対応

課題

- 飼料穀物の輸入依存体系
- 肥育もと牛の確保（頭数、価格高）